

2. 現在の研究

現在、行っている研究は以下の4点である。

1点目は、三島の戯曲と短編小説における比喩表現の比較である。直喩表現において、他の作家の例とも比較を行ったところ、三島の独自性はほとんど見られなかった。また、比喩のたとえるもの(喩義)に関しては、「あなたつたら子供みたいね」(『聖女』)のように、修飾語さえ伴っていないことが大半であった。三島の小説の比喩に関して、先行研究では比喩を多用した技巧に走った文体であると評価されているが(武田1981、久保田1990)、三島戯曲においては、技巧が凝らされていない、慣用的な比喩を簡潔に使う傾向が強いことがわかった。

2点目は、三島の戯曲と短編小説の人物の会話的特徴と外的特徴についてである。台詞に俗語、訛、方言が使われた例は少ないが、使われた場合、品がない人物が使っていることがわかった。外的特徴としてのト書きの衣裳の指定、地の文の衣裳の描写に関しては、戯曲のト書きの場合、ある人物が登場する直前のト書きで簡潔に記されていたが、小説の地の文の場合、色・模様など細かく描写されていた。それは、戯曲は上演されることが前提となっているため、小説は読ま

れることが前提となっているためであろう。

3点目は、空間表現として、海・山といった自然表現、天候について、三島の戯曲と小説の比較である。自然表現に関して、「山」は戯曲において、ただ訪れるべき場所として登場することが多いのに対し、「海」は戯曲にも小説にも、重要な場面で登場していた。三島にとって、山は死んでしまふ場所、海は死んで帰ることができる場所というイメージがあるためであろう。

4点目は、時間表現である。小説において、時間は前後することがあるのに対し、三島の戯曲においては、時間は順序を変えずに一方方向に進んでいくのみであった。過去の出来事に関しては、舞台上の時間が遡ることはなく、全て台詞で表現されていた。それは三島が文学作家であるため、言葉に頼っていたことと関係があると考えられる。

3. 今後の展望

今回は三島の戯曲と三島の短編小説を比較したが、今後は、そのみならず長編小説や評論の表現等とも比較し、三島の戯曲の表現の特徴を追究したい。また、他の戯曲作家の作品との比較を通して、更に三島戯曲の特徴を明らかにしたいと考えている。

たかはし ゆいこ／お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻

言い切りの夕について

石井 佐智子

1. 研究背景・動機

第2言語を習得する上で難しい要素として、時間表現が挙げられることがある(Odlin 2008)。言語によってものの見方が異なるというウォーフの「言語的相対論」(Whorf 1956)は有名であるが、(1)のように同じ場面に接しても言語によってその表現が異なることや、同じ言語を用いても学習者と母語話者では表現が異なることは近年、池上(2006)やOdlin(2008)によっても指摘されている。

(1) (待っていたバスを指さして) バスが来た。

／ The bus is coming.

日本語の時間表現は「スル、シテイル、シタ、シテイタ」があらわすと言われている(工藤1989)が、その中から夕に着目したいと考えている。日本語教育の現場で夕は「過去」とされることが多く、初級で「昨日、友達と野球をしました」と学習して以降、どのような場面で使用するか触れられることはほとんどな

い。夕の意味用法についての見解は様々であるが、夕が初級で挙げられた場面以外でも用いられることは長年、指摘されてきたとおりである。

(2) (試験前夜、教科書をバタンと閉じて) 覚えた! 寝るぞォ。

(3) (詰みにつながる手筋を発見して三1角を打ちながら) よし、これで勝った!

(4) バスが来た!

(5) よし、買った!

(6) 君は、たしか、たばこを吸ったね。

(7) どいた! どいた! (尾上1982より)

また、学習者には初級で学習した用法がすべてだと思ってしまう傾向があるという報告(遠藤2008)もあり、学習者が「夕=初級で習った過去」としている可能性がある。

2. 現在の研究

以上の背景から、現在、以下の研究を行っている。

1. 過去以外の場面におけるタについて、日本語母語話者、非母語話者を対象に質問紙調査を実施し、両者に相違があるか否か、相違がある場合はどこに見られるかを定量的に分析した。
2. 母語話者が多様なタをどのように捉えているか、母語話者の持っているタの構造を明らかにするために、クラスター分析、正誤判定を行い、定量的な調査からタの使い方を検討する。(準備中)

3. 今後の展望

非母語話者にもクラスター分析、正誤判定を行い、日本語母語話者との相違点を明らかにしたいと考えている。それとともに非母語話者の母語、日本語レベル別に比較を行い、各々の相違点、習得過程も見ていく必要があると考える。

参考文献

- 池上嘉彦 (2006) 「〈主観的把握〉とは何か——日本語話者における〈好まれる言い回し〉」『言語』35, 20-27 大修館書店
- 遠藤直子 (2008) 「日本語学習者による初級文型～テモイイのとらえ方について—『初級文型の硬直化』の問題から」『日本語教育』137, 21-30
- 尾上圭介 (1982) 「現代語のテンスとアスペクト」『日本語学』2, 17-29 明治書院
- 工藤真由美 (1989) 「現代日本語のパーフェクトをめぐって」『ことばの科学3』53-118 むぎ書房
- Odlin, T. (2008) "Conceptual Transfer and Meaning Extensions" Robinson, P. & Ellis, N. C. (Eds.) *Handbook of Cognitive Linguistics and Second Language Acquisition*, 306-340, London: Routledge
- Whorf, B.L. (1956) *Language, Thought and Reality*, Cambridge, MA: MIT Press (池上嘉彦訳 (1993) 『言語・思考・現実』講談社)